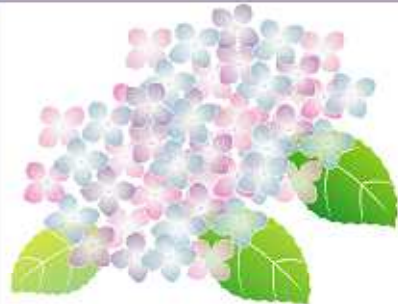


しょうじぐち
小 路 口
石 材 通 信

v o l : 1 7 2 0 1 1 , 6 , 2 0



ごあいさつ

梅雨明けが待ち遠しい今日この頃ですが皆様には
お変わりございませんでしょうか。

東日本大震災より早3ヶ月が過ぎました。

5月末に日本石材産業協会大阪支部総会があり、
現在副会長をされている福島県の方が総会で現地
の被害状況や原発問題などのテーマで講演して頂
きました。現地では復興に向け廃材などの処理が迅速に行われている
ようですが、全ての廃材を処理するだけでも2~3年かかり、それから
街の復興作業にかかるということで本当の意味での復興にはまだまだ
長い時間を要するようです。放射能問題でも現在当社でよく使用させ
て頂いていた福島県の青葉石など複数の採石場が高濃度の放射能地

域に入り、採石がストップされ、再会の目途は全く立っていないという状況らしく、廃業を余儀なくさ
れる方も多数おられるとのことでした。全く先の見えない状況の中ですが、副会長は全国を訪問し
被災地の現状や復興にむけて我々が何をすれば被災地の為になるのかを話してくれています。
このような状況で簡単に言えることではありませんが副会長は平然と言っていました。

『過ぎてしまったことは仕方がない。だから少しずつでも前に向かって進んでいこう。』

本当に心の強い方だなと感心致しました。我々関西の人間も改めて被災地の為になんか出来るか
を深く考えさせられた一日になりました。

最後になりましたが時節柄皆様もお身体には十分ご自愛下さいませようお祈り申し上げます。



しょうじぐちよしひろ
5代目 小路口 欣弘
ブログ更新中

お墓にまつわるエピソード集 ~お墓物語~

前号でもご紹介させて頂きましたが、今回はこの冊子の中でも私が特に感銘を受けた作品を
ひとつご紹介したいと思います。

タイトル 「一片の桜」 28歳 女性(大分県)

月一度、ドライブがてら家族でお墓参りに出掛ける。車でおよそ一時間、主人と私ともうすぐ2
歳になる娘。海や山の広がる景色を眺めながらのドライブは、いつも気持ちいい。『〇日はお墓
参りにしよう』と決めると、その日は必ず晴天になる。まるで私達を迎えるために、天国の祖父が
お天道様に頼んでいる様子。

この月一度のお墓参りで、毎回不思議なことがある。お墓の前に行くと娘が必ず笑顔になるのだ。帰る時には何度
も振り返り名残惜しそうにする。『いいおじいちゃんが見えるのかな』と主人といつも冗談まじり話していた。先日のお
墓参りは桜が満開、やはり風ひとつない晴天の日だった。山のふもとに建っている祖父のお墓を囲むように、幾本も
の桜の木が華やかにお化粧していた。お酒の大好きだった祖父。『みんなでお花見ができるね』と、主人が湯飲みに
茶碗に日本酒を並々注ぎ供えた。線香は毎回娘が供えると決めてある。『そおっとね』と促すと、小さな手で器用に
さした。

その時、ふいにあたたかな風がふわりと私達を包み込んだ。『あ、お花、お花』娘が歓声をあげる。見上げると桜の
花びらがお墓に、私達の頭上に、辺り一面に舞っていた。幻想的な光景に私と主人はただただ見惚れていた。娘は
キョッキョッキョとはしゃぎまわる。その娘の頭に一片の桜の花びらが舞い降りた。

ふいに、幼い頃祖父がいつも私の頭をやさしく撫でてくれたことを思い出した。『いい子じゃなあ。大きくなれよ』祖
父があ頃と同じようにして、きっと今、娘の頭を撫でている。ごつごつとしたあの大きな掌で、しわくちやのあの笑顔
で。私達をこの空の上から見守ってくれている。そんな気がして涙が溢れた。

一片の花びらは、いつまでも静かに娘の細い髪に留まっていた。



ご希望の方全員に
プレゼント致します。

新入社員 深井将太の

日々是精進!



皆さんこんにちは。深井将太です。

去る6月14日から17日に中国の廈門というところに研修旅行に行つて参りました。廈門は中国の福建省にあり、台湾が目と鼻の先という非常に暖かい土地で気温も30~35度と一足先に真夏を体験してきました。

廈門では石材業が非常に盛んで工場も1つ1つが日本の工場と比べるとはるかに大きく、従業員も多く、特に女性や小学生?ぐらいの年の子供も働いており大変驚きました。また中国では貧富の差が激しく、上海などの大都市では好景気に沸く一方で貧困に嘆く人々もまだまだ多いということを知りました。

私は旅立つ前は中国に対してあまり良いイメージを持っていませんでした。盗作・ぼったくりなどのイメージが根強くありましたし、確かにそのような側面があることも事実で観光地でも路地1本入ると危険な場所があるようですが、今回の旅では良い人ともたくさん出会えましたし言葉が通じなくても身振り手振りで意思を伝えることが出来ました。

その例として『乾杯』という習慣があり、中国では『カンパイ』と言うので乾杯をしたら必ずそれを飲み干すというのが礼儀だそうです。

初対面の人とは3度乾杯をすることで初めて心が通じ合うということで私はあまりお酒が強くないのですが、郷に入っては郷に従えで苦しみながらも3度目の乾杯を終えると『盟友』や『兄弟』と呼んでくれたのが非常に印象に残りました。(この日はこれ以降の記憶がありません...)

もちろん石の研修もさせて頂きました。工場で検品をしている時の社長兄弟の目は真剣そのもので、石の目合いについて、検品の時にどの部分をチェックするかなどを教えてもらいました。



↑ 検品中の社長達です



↑ 石を磨いているのはほとんどが女性です!



↑ 乾杯に挑戦!

また今回いつもお世話になっている通信読者様へのプレゼントとして **福** を呼ぶ **ふくろうのストラップ** を持って帰ってきましたのでご希望の方はご連絡下さい(^_^)



↑ ふくろうストラップです。

いいことがいっぱい起こる 禅の言葉

うきせいこう
「雨奇晴好」



植西聡 著書
『いいことがいっぱい起こる! 禅の言葉』より

気持ち良く晴れ渡った日にはなにかいいことが起きそうだと気持ちがウキウキと楽しくなる。でも逆にどんより曇った空から冷たい雨が落ちてくる日は気持ちまで暗くなってしまう。こんな風に自分の周りの環境が変化するたびに気分を上下させているのは心はすぐに疲れてしまいます。アップダウンが激しい山道を自転車で走ると足腰がすぐに疲れてしまうように心が疲労困憊して倒れてしまうのです。長い人生を息切れせずに行くには平坦な道をスイスイ走るように心を穏やかに落ち着けて生きていくのがいいのです。

『雨奇晴好』の『奇』の字はめったに起こらない珍しく楽しい現象という意味です。つまり、いいことがあっても悪いことがあっても『今日はいいい日だ』と考えて暮らそう。それが幸せと安らぎの源泉だ。と、この禅語は教えてくれているのです。例えば仕事でミスをして叱られても、1つ賢くなれたと思えば心が安らぎ、しかもその日は成長出来たいい1日に変わります。もちろんいい出来事があった時にはそれを大いに喜ぶ。そんな風に心をいつも楽しく前向きな状態にしておくコツを身に付ければずっと長く続く安らぎを得られるようになります。

『晴れてよし。雨が降ってもまたよし』と思う人になる

小 路 口 石 材 通 信

発行元

しょうじくち

小路口石材工業株式会社

〒591-8034

大阪府堺市北区百舌鳥陵南町
1-13

フリーダイヤル

0120-78-5461

FAX 072-278-5463

Eメール

y-shojiguchisekizai@

dance.ocn.ne.jp

ご感想お寄せ下さい